

学院 キャンパスだより

第11号



光星学院高校 スチューデントプラザ(中庭)

八戸短期大学「看護学科」設置認可・来春開学

石丸浩文先生(八戸短期大学名誉学長) 瑞宝小綬章

宮古博文先生(光星学院高校教諭) 読売新聞社賞受賞

野辺地西高校多目的屋内スポーツ施設完成

八大生・八短生が作る番組「ハチバン!」放送開始 —八戸大学—

南部道楽フェスティバル2008に八大生・八短生ボランティア参加 —八戸短期大学—

第47回同窓会総会開催される! —光星学院高校—

のへじ夏祭りに西校生が参加してきたあ! —野辺地西高校—

八戸短期大学「看護学科」設置認可・来春開学

中央審議委員会の審査をした結果、10月31日付で文部科学省より八戸短期大学看護学科の設置が認可され、2009年4月に新設されることが決定した。

新設される看護学科は3年制で、入学定員は、男女80名。看護師国家試験の受験資格が得られる課程で看護師養成のための高等教育機関として県南地方初となる。

これで、八戸市を中心とした県南地方

の方々が、地元で学べるようになった。

現状では、医療の高度化に対応した質の高い看護師の養成が求められており、看護に関する総合的な知識と技能を有する人材育成を目的としている。また、「地域に根ざした看護」を目指して、地域に信頼される確かな知識・技術・コミュニケーション能力とともに、豊かな感性と人間愛を備えた看護師の養成を目指すことになる。

すでに、2008年3月には、美保野キャンパスに、4階建の総合実習館が完成しており、看護学科の実習・研究室などで利用することとなり、教育環境は整っている。今後も県南地域が医療看護の面でレベルアップしていけるように、近隣病院と連携を強化し、優秀な人材の育成を目指す。



八戸大学・八戸短期大学総合実習館

八戸短期大学「看護学科」入学試験説明会開催

この度設置認可申請中の八戸短期大学看護学科が、10月31日付け設置認可の運びとなった。その事を受け、11月7日八



戸プラザホテルにおいて、2009年4月に
八戸短期大学に新設される「看護学科」
に関する入学試験説明会を行い、県内外
より約30校30数名の高校教員が
来場し、約2時間にわたる説明
を傾聴した。

まず始めに、蛇口浩敬八戸短期大学長より挨拶がなされ認可の経過報告と共に、医療界に役立つ優秀な人材を育成したい旨明示された。その後看護学科設置委員長をはじめ、各スタッフより教育理念やカリキュラム、卒業後の進路に至るまで具体的内容の説明及び入試事務室長よ

り、今年度行なわれる入学試験の説明を行った。説明会終了後の質疑応答では、より具体的な入学試験対策や、学費に関する質問が出たりするなど盛況の内に閉会した。

また、同ホテル内で同時進行で開催した高校生・保護者向け相談会においても多数の保護者及び高校生が来場し、各ブースにおいて熱心な質疑応答が繰り上げられた。来る12月には推薦入学試験が行われ、県南初の看護師養成短期大学として記念すべき新たな一歩を踏み出すことになる。4月スタートに向け、様々な具体的な準備を進めていく中で、学内的な結束が深められるよう努力していきたい。

八戸短期大学名誉学長 石丸浩文先生、瑞宝小綬章受章

2008年秋の叙勲で、八戸短期大学名誉学長である石丸浩文先生が、瑞宝小綬章を受章した。

石丸先生は、長年教育界に身を置き、八戸短期大学及び幼稚園の開設や幼稚園教諭・保育士の育成並びに学生の教授指導に携わり、幼児保育分野における研究者としての功績を残すなど、幼稚園から大学までの研究・教育や私立学校振興に関しても多大な貢献を行い、その顕著な功績功労が認められ、この度の受章となった。

石丸先生は、昭和31年に学校法人光星学院に奉職し、光星学院高等学校教諭を経て、昭和46年4月に開学した青森県南・岩手県北初の高等教育機関である「八戸短期大学」の開設準備委員長として、短大開設に関する一切の事務作業を取り仕切り、開学後は事務局長として教育基盤の礎を築いた。昭和48年から平成14年までは八戸短期大学幼児教育学科の教員として、幼稚園教諭・保育士の育成に携わり、同短期大学の幼児教育学科

長・副学長代理・副学長・学長を歴任、平成14年には八戸短期大学名誉学長の称号を授与された。

在任時は、本学院附属幼稚園の開設、教育環境の改善と学科増（昭和62年経営情報学科開設）に貢献、「八戸大学・八戸短期大学図書館」を開設、本学院の教育環境の充実と発展並びに業務運営の推進に貢献、本学院「立体的総合学園構想」

の構築に尽力した。

その他にも、八戸地域の各種委員や講師として地域のレベルアップに努めたほか、全国保育士養成協議会東北ブロック理事として組織の強化、全国大会で発表を行うなど同協議会発展にも多大な貢献をした。

これらの功績が認められ、昭和54年には青森県知事より私学振興表彰、平成2年には文部大臣より教育功労賞、平成3年には青森県私立幼稚園連合会会長より教育功労表彰、平成12年には全国保育士養成協議会会長より教育功労表彰を受け今日に至っている。



石丸浩文先生の経歴紹介

- S31 光星学院高校教諭
- S42 学校法人光星学院理事
- S46 八戸短期大学事務局長
- S48 光星学院八戸短期大学講師
- S51 光星学院八戸短期大学助教授
- S53 光星学院八戸短期大学副学長代理
- S54 光星学院八戸短期大学附属第二ののめ幼稚園園長
- S56 光星学院八戸短期大学教授
- S59 光星学院八戸短期大学副学長
- S62 光星学院八戸短期大学幼児教育学科長
- H7 光星学院八戸短期大学学長
- H14 光星学院八戸短期大学名誉学長

宮古博文先生（光星学院高校教諭） 読売新聞社賞受賞



光星学院高校教諭、宮古博文（書家名：宮古文雪）先生が第25回読売書法展の読売新聞社賞を受賞という快挙を達成した。

読売書法展とは、古典・伝統の書を継承し、発展、向上を図るため、最高水準の公募展を目指して1984年に始まり、開催当初から質、量とも国内最大級を誇っている書法展である。

その読売書法展が25回目を迎えた今回、宮古博文先生が、漢字部門において、最高の賞、つまり第1位の賞である読売新聞社賞を受賞した。

書道の世界において、日本でも最大級の賞であり、全国でもなかなか受賞することが困難である賞に青森県南から初の受賞という快挙である。

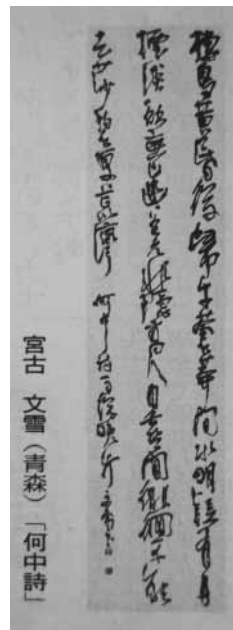
スポーツの世界に例えると、全国大会での優勝である。

入賞作は、行草体という書法で書いた五言律詩「雨後晩行」で漢字の「帰」と「幽」をメーンに据え、字を扁平気味に描いて動きを抑えつつ、作

品全体の華やかさを失わないように気を配って書いたという。

高校では、社会科と書道の授業を受け持つ宮古先生は、今後の書家としての目標として「究極は、一生かけて納得のできる作品を作り上げること」と意欲を示した。

宮古先生の作品は、他の入賞・入選した作品と共に、半年をかけて全国8都市を巡回しながら展覧会で公開されている。



宮古 文雪（青森）「何中詩」

野辺地西高校 多目的屋内スポーツ施設完成

10月22日、野辺地工学専門学校駐車場跡地に建設された、野辺地西高校多目的屋内スポーツ施設において、竣工祝別式が川崎忠紀司祭様の司式のもと、厳かに執り行われた。

司祭様の招きの言葉と祈りで始まり、



聖書朗読、水の祝福、建物の祝福、共同祈願、主の祈りが行われ、中村覺理事長が「野辺地西高校35周年記念事業の一つとして建設したこの多目的施設が無事に完成したことに心より感謝します。この施設を十二分に活用して、自分達の財産にして欲しい」と挨拶をした。そして、建設に携わった株式会社岡山建設代表取締役社長の荒谷清隆様に中村理事長より感謝状が贈られた。

完成した屋内多目的スポーツ施設は、鉄骨造りで、559.11㎡の広さがあり、各スポーツクラブの練習には充分活用できる環境が整っている。

特筆すべきは、施設の屋根が透明のフッ素フィルムでできており、日



差しがそのまま室内に入り、とても明るくなっている。また、冬でも雪が積もりにくく耐久性にも優れている。

このフッ素フィルムは、今年行われた北京オリンピックの鳥の巣といわれたメインスタジアムやウォーターキューブ（北京国家水泳センター：水泳競技場）にも使用されたものであり、日本では北海道の一部で試用されているが、本州では、この野辺地西高校多目的屋内スポーツ施設が最初である。

美保野キャンパス野球場 防護ネットとサブグラウンド設置

美保野キャンパスにある光星学院高校と八戸大学の各硬式野球場に、練習環境充実のため、八戸大学父母の会と美保野環

境班（学園サービス）の協力を頂き、光星学院高校硬式野球部サブグラウンドには防球ネット、八戸大学硬式野球場にはサブグラウンドがそれぞれ設置された。

①光星学院高等学校 硬式野球部 サブグラウンド防球ネット



②八戸大学硬式野球部場 サブグラウンド



Column

テレパシーが得意な日本人

仕事などのノウハウを学ぶ、つまり情報として自分のスキルに落とし込むときに、海外の情報の伝え方を学ぶ方がいいと感じます。

その情報の伝え方を、海外から学ぶことをすすめる理由に体系性の違い、というのがあるんですね。特に西洋圏が優れていると思うのですが、その理由のひとつに情報をまとめて体系化するのがうまい！というのがあります。

日本では、人から人へ教える場面や、よくテレビで様々な日本の評論家を見ていれば感じますが、日本人は情報を体系的に伝える能力が極端に低いと思うのです。海の向こうの人たちは、この能力が非常に優れている。というよりも、そういう文化

なんですね。逆に日本は以心伝心という文化が根強いです。

以心伝心、英語に直すと、telepathy（テレパシー）です。

つまり、西洋人から見て日本人は、テレパシーを使える人種なんですね。

でも、西洋人の彼らにはテレパシーは使えません。

全て言葉にして、万人がわかる体系にして、初めて情報は情報としての価値を持つという文化があるんです。

だから、一言で言えば、情報がすごく使いやすい形で、現実に即した実践的な形でまとまっているわけです。最近、「俯瞰」という小難しい言葉を覚えたので使いますが海外の教材というのは、「俯瞰」が非常にしやすい形でまとめられていることが多いわけです。

はじめからというよりも、しっかりとした体系になっているからですね。

日本の教材のように、ちらかった状態ではないわけです。

ちらかった頭の中身を整理して、体系化してアウトプットするのがヘタな日本人と、それが文化として定着している西洋人であれば、後者から学んだ方が効率的だと思うわけです。

もちろん、海外の情報をそのまま翻訳して日本でただやるのはどうかと思いますけどね。

それは、文化に対する配慮・理解がなさ過ぎます。海外から学び、それを“日本的に”応用する。これが正解でしょう。

八戸大学・短期大学オープンキャンパス

この度、八戸大学・八戸短期大学オープンキャンパスを7月19日に引き続き、8月9日、9月6日、10月4日と開催した。

全日程において、Work・Word・Well-being・World・Wonderful・Happyのコンテンツに基づき『八大・八短式5W1H』と銘打って、「すてきな大人になろう」「心理学入門～心を科学してみよう～」などの特別講座を実施した。



また、参加者の皆さんと元Jリーグ監督の清水秀彦氏、青森放送アナウンサー夏目浩光氏との対談や、体験授業、スタンプラリー形式の施設見学、学食での体験などにより、美保野キャンパスで学生気分を味わった。

最終回の10月4日には入試対策講座を実施した。入試概要説

明の後、面接や筆記試験などのポイントを伝授。幼児保育学科に至ってはピアノの実技試験のデモンストレーションを行った。また、2009年4月新設の看護学科については、看護師に必要な資質についてのワークショップを行い、学力



向上だけではなく豊かな人間性が求められていることへの理解が促された。参加者はいずれも真剣な眼差しで聞き入っていた。そんな彼らが希望する学部・学科の合格を手にし、表情が笑顔でほころぶ来春、もう一度美保野キャンパスで再会したいものである。

法人内附属幼稚園 初任者研修開催

8月19日(火)法人内の附属幼稚園（八戸短期大学附属幼稚園、聖アンナ幼稚園、びわの幼稚園、第二しのめ幼稚園）に勤務する初任1年目または2年目の教員

に対して、初任者研修が行われた。

八戸短期大学附属幼稚園の多目的室で行われた研修は、初任者が幼稚園の概要と内容を学び、各人の幼児教育への専門

性と人間性を深めることを目的とし、各園の園長が、職員の服務・文書の作り方、幼稚園の現状と課題、幼稚園の概要と担任の役割、児童理解と自己理解・人間関係論についてそれぞれ講座を行った。

また第二部として、日を改めて、各園において副園長による「自園の現状と課題」の講座が行われ、初任者教員は、各講座で学んだポイントと感想をレポートにして提出した。

この度、8月下旬に、八戸看護専門学校より新規採用する図書館司書について、本館において研修を受けさせて欲しいとの依頼があった。地域に開かれた図書館として、一般市民へも開放していること、絵本の読み聞かせ講座等の公開講座を開催していること、八戸短期大学の学生をインターンシップとして受入れた実績があること等、幅広い文化活動を行っていることが評価されての、司書研修の依頼内容であった。

学生ではなく、一般社会人の方の研修を担当するのは初めてのことでしたが、大学図書館としての社会的責任と地域社会への貢献という観点から、研修者を受

司書研修者の受入れについて

け入れることにし、9月16日(火)～26日(金)の期間、司書研修を実施した。

研修内容は、図書館業務全般について研修者から特に要望があった。年間事業計画（業務スケジュール）の立て方や、日・週・月ごとのルーチン業務の流れ、貸出・返却の一連作業、未返却者への対応、学校図書館としての留意点、レファレンス記録や回答の方法、情報（書誌）検索

の基本等の指導を行なった。研修者も熱心に受講され、大変有意義な研修であったと満足していただけたようであった。

通常業務に加えての一般社会人の研修者受入れは、少々大変な業務でしたが、本図書館がこれまで行ってきた地域社会や地域文化への貢献が認められたことは、大変喜ばしいことだと思った。

平成20年度

事務職員研修会

平成20年度学校法人光星学院事務職員研修会（学園サービス職員含む）が平成20年8月12日（火）参加者87名で行われた。研修の内容は次のとおりです。青森放送株式会社取締役・支社長「齋藤幸彦氏」による講演、その後一般職員は「学校法人諸規程」「関係法令集・経常費補助金・文章作成」「財政と予算」「年金特別便・

届出」が行われ、業務班においては「交通安全指導・適性検査」の研修が行われた。

齋藤幸彦支社長による講演では、放送業界にまつわるエピソードや支社長としての部下の指導や採用時におけるポイント、趣味のスポーツにまつわるエピソード、齋藤氏独特の価値観でいろいろな

ニュースに関する批評など多岐多岐にわたる講演内容でした。

一般職員の研修は、総務・財務・人事担当部署から業務に関する基礎知識等の講話があった。

業務班の研修は、交通安全に関するビデオ視聴、適性検査等が行われ安全運転の再確認をした。

研修終了後、同会場にて講師を務めて頂いた齋藤支



社長をお招きし、法人職員と共に終始賑やかな懇親会が行われた。



Column

スピードは成功に必要な要素

元ライブドア社長の堀江貴文氏は、M&Aを中心にライブドアという会社を、ものすごいスピードで大きくした人で、その後、法律を犯し逮捕されたことで有名ですね。その堀江氏を擁護するわけではありませんが、成功に必要ないくつかの要素を持っていたことは間違いありません。

堀江氏の辞職後、ライブドアの社長に就任した平松庚三氏は、堀江氏がM&Aを仕掛けて買収しようとした会社の社長でしたが、まさに買収が決まろうとしていたその矢先に、例の事件が発覚し、買収話はなくなったわけです。当時、平松氏の会社を買収しようとしていた会社は、ライブドアだけではなく、他にも複数社が名乗りを上げており、どこの会社も、なんとかM&Aを成功させたいので、重役が何人も社員を連れて交渉に臨み、少しでもいい条件で、M&Aを成立させようと必死だったわけです。でもその時の平松氏の会社側の提示額は、実に180億円でした。これには、さすがの重役達も即決

はできず、詳しい話を聞いて、慎重に交渉し「社に持ち帰って検討」「社長と相談」ということで、次々と席を立て行ったそうです。

普通に考えて、実に常識的な反応です。ただ、ライブドアは違いました。

M&A交渉の場に現れたのは、たった一人の青年で、席に着き、簡単な概要説明を聞いて、交渉を始めるなり開いた口から出た言葉が

「費用はいくらですか？180億円？じゃあ、買います」

さすがの平松氏も心配になって

「電話でも社長に相談しなくてもいいんですか？」と確認したところ

「大丈夫です。買って来いと言われましたから。今からオンラインの口座から決済します」と言い放って、持っていたモバイルPCで、180億円を振込んだのです。

この青年、この時24歳でした。この彼は、堀江氏がかなり信頼を置いていた人物ではあったのですが、それでも24歳の社員に180億円の案件の決定権と決裁権を与えるというのは、通常では考えられません。

M&A当事者だった平松氏は、メディアの取材で、

「彼は罪を犯してしまった。もちろんそれは許されることではない。しかし、彼をはじめとした若いIT起業家のあのスピードだけは本当にすごいと思う。間違いなく成功に必要な要素のひとつですよ。」

そう。成功に必要な能力のひとつは「スピード」なのです。

彼らは、時間がどれだけ貴重か知っているからこそ、その時間を買うためにお金を惜しみなく使います。M&Aで、すでに完成している企業を買うというのも、1から作るよりも早いからという考え方によるでしょう。

時間は私達が感じるより早く流れていて、チャンスは、目の前にあるときに掴まないとすぐに手が届かなくなることを知っているからこそ決断に時間をかけないのです。

慎重さを放棄しろといっているわけではないのですが、それだけ「スピード」は大事なのです。（オリ）

八戸大学

総合研究所では、平成21年度から「起業家養成講座(仮称)」を開催する。そのプレイベントとして11月4日、北城恪太郎氏(日本IBM最高顧問・元経済同友会代表幹事)を招いてのセミナーを開催した。

また、セミナー終了後は、「八戸大・八戸工大・八戸高専 学術交流に関する協定1周年を記念し、「3学(校)長フォーラム」も開催、参加者は起業の必要性和地方高等教育機関の役割についての認識を新たにした。

○**起業家養成講座(仮称) プレセミナー**
プレセミナーでは、北城恪太郎氏と、この度八戸大学客員教授に就任した大谷真樹先生(八戸市出身、ヤフーバリューインサイト(株)取締役・創業者)、丹羽浩正八戸大学ビジネス学部教授による鼎談が行われ、「10年間で100人の起業家を青森から輩出する」目標や他にはない講座

北城恪太郎氏(日本IBM最高顧問・元経済同友会代表幹事)をお招きして

の特徴について説明、「青森県には3つの良い材がある。木材・人材・食材で、ないのはやる木(気)だけだ」と説き、目に見えない隠れた資産への気づき、未来洞察力、マーケティング戦略の想像力と行動力に欠けており、発想の転換次第で何ら負い目を感じることはないと言った。

○**学術交流に関する協定1周年記念「3学(校)長フォーラム」**

フォーラムでは、「起業による地域活性化と高等教育機関の役割について、北城恪太郎氏が基調講演、その後、「高等教育機関における人材養成と社会貢献」について、庄谷征美八戸工科大学長、鈴木宏一八戸大学長、井口泰孝八戸高専校長

がパネルディスカッションを行った。北城氏がアドバイザーとして参加したほか、日銀の鶴海誠一青森支店長がコーディネーターを務め、「教育・産業振興・地域活性化」の3点について活発な情報交換を行った。



父母の会地区懇談会開催される



平成20年度の八戸大学父母の会地区懇談会は、11月1日八戸大学会館、11月3日マリオス(盛岡駅西口)の2カ所で開

催され、両会場あわせて約50名の父母が参加した。

両会場とも、学長挨拶の後、学部などの状況説明や個人面談が行われた。

今年度から新たに、父母向けの「就職セミナー」を実施。就職情報会社である株式会社ディスコの菅野健朗東北支社長が「保護者に伝えたい就職情報—子どもの進路とどう向きあうか—」と題して講演した。



個人面談では、ゼミ担当教員が春学期末までの成績や部活動の状況、ゼミでの様子を父母に説明、普段知ることができない大学での様子を聞いた父母は満足した様子だった。

父母の会事務局では、1年に1度教員と父母が直接接することができる機会なので、もっと多くの方に参加していただけるよう、さらに内容を充実させたいとしている。

総合実習館2F基礎医学実習室に、関係機関・関係者からの寄贈があり、次のような機材が新たに加わった。寄贈内容は以下の通りである。

●人間健康学部 教授 吉田 稔

- ・蒸留水製造装置(EYELA STILL ACE SA-2100E)1台
試薬等を溶かすための純水を製造する。
- ・超音波洗浄装置(YAMATO 8210)1台
実験に使用後のガラス器具等の洗浄に用いる。
- ・紫外可視分光光度計(SHIMAZU UV mimi 1240)1台
簡単な比色分析から、高度な定量測定並びにスペクトル測定できる。ま

人間健康学部へ実験機材の寄贈

たDNAや蛋白質の濃度を発色操作を行わないで直接紫外波長領域(230nm、260nm等)の吸収バンドの定量もできる。

●環境省国立水俣病総合研究センター

- ・卓上冷却遠心機(DISKBOY FR-100)1台
回転数を12,000rpmまで上げることができ、微量の試料の分離に利用できる
- ・マイクロプレートリーダー(Bio-RAD model 550)1台
さまざまな分野における吸光度測定を、96穴マイクロプレートを用いて

迅速に行う比色計で、各種EILキット測定等に利用できます。フィルターは450nm、490nm、595nm、655nmが装着されている。



この寄贈により本学での学びの幅が更に広がったと言える。寄贈していただいた、関係機関・関係者の方には心より感謝申し上げます。

I T教育研修会・経営ビジネスセミナー 開催される

㈱八戸地域高度技術振興センターと総合研究所の共催事業である「I T教育研修会2008～KADARU」・「経営ビジネスセミナー」がこのほど開催された。

○I T教育研修会

8月7日、市内オフィスにおいて、「I T教育研修会2008～KADARU～」が開催された。I T教育研修会は、八戸地域のI Tコミュニティ作りを目指し、平成13年度より始まったもので今回6回目。

今回は、テーマを“地域コミュニティ”とし、「はちのへ地域SNS『はちみーつ』」の概要（八戸市総務部情報システム課：澤田美智明氏）、「情報モラル教育とI C T活用の現状と課題」（八

戸市総合教育センター：工藤正道氏）、「携帯電話を安心して利用するために」（N P O法人知的財産研究推進機構：及川博道氏）の3講演を実施。小中学校・高校の先生方や地元企業の方など約30名が聴講した。講演では八戸地域で起きた出会い系サイト被害・携帯裏サイトの紹介なども行われ、多くの質問があり理解と交流を深めることができた。

○経営ビジネスセミナー

9月12、19日の2日間、市内オフィスにおいて「経営ビジネスセミナー」が開催された。このセミナーは経営の革新・業務改善や新規事業の展開に取り組もうとする経営者・管理職を対象としたもの。



今回の講座は「社員の健康管理」（講師：三井隆弘人間健康学部専任講師）、「人材評価」（講師：丹羽浩正ビジネス学部教授）をテーマに開催。実習を交えながらの講座を熱心に受講していた。

土曜講座 始まる

総合研究所の社会人のリカレント事業である「08そうけん土曜講座」が5月から開催されている。今年度は2つの教養講座と3つの資格取得講座を開催。既に終了した春の講座（ロシア文化講座・福祉住環境コーディネーター講座）に続き、秋の講座（公開講座・食生活アドバイザー講座）・冬の講座（日商簿記講座）が開催される。

土曜講座は生涯学習の一環として、年

齢や学歴に関係なく学習したい方へ学習機会を提供するもので、70代後半の方から現役の高校生まで、毎週土曜日には、幅広い年齢層の方が研究所で学んでいる。

なお、全ての講座があおもり県民カレッジの単位認定講座となっている。

特に公開講座では、普段学生に講義をしている大学短大の先生方が、人生経験



豊富な受講生の質問攻めにあうことも多く、いつもの講義とは違う刺激を受けている様子がうかがえる。

資格取得講座を中心に既に来年度の問い合わせもあり、今年度の状況をふまえながら、地域住民のニーズに応えられるリカレント講座の開設に向け、検討を始めている。



JATIトレーニング指導者要請校へ認定される

人間健康学部では本年8月より、特定非営利法人日本トレーニング指導者協会（JATI）認定資格「トレーニング指導者」受験資格取得が可能となる養成校となった。北海道・東北地方の大学では第1号となる。「トレーニング指導者」とは、一般人からトップアスリートまで、あらゆる対象や目的に応じて科学的根拠に基づく適切な運動プログラムの作成と指導ができる専門家であることを証明する資格。本来、トレーニング指導者を受験す

るためにはJATI主催の講習会への参加が必要となるが、本学部においては指定された本学開講科目を受講し単位を修得することで受験資格を手にすることができる。余計な費用がかからずに受験資格が得られ、一度得た受験資格については現在のところ期限が設けられてはいない。あくまで受験資格なので合格するためにはさらなる努力が必要となるが、トレーニング指導者を目指す学生や、将来スポーツ関係の職を目指したい学生にとっ



ては資格取得が目標のひとつとなり、費用面と併せて受験機会も確保され、学生にとって大きなメリットとなるはずだ。



今年度の海外研修は北アメリカの三つの大きい都市（ロサンゼルス、シアトル、ピクトリア）を訪れた。特に現地大学の留学生の英語授業での交流は、とても良い体験であった。他のアジアの国の留学生は英語を学ぶ姿勢が積極的で、自分から質問をし、間違いを恥ずかしがらずに大きな声で英語を話している。その姿に学生たちは大きな刺激をうけていた。

2008 Study Trip to Amerika

ホームステイも一人一人が違う経験をし、アメリカという国は、多くの人類がおり、日常の食物、習慣、宗教、思想は家族によって違うのだということを感じることができたと思う。また、研修期間中には「課題」を学生に与え、誰の手伝いもなしに、自分の英語を実際に試した。通りがかりの人に道を聞いたり、スーパーの店員に食品探しを頼んだり、郵便局で手紙を出したり、レストランの予約をしたりなど。皆、緊張は

していたが、最後まで頑張って、自分の力だけでやりとげていた。自分の英語が通じた時の喜びや、目標を達成したこと、自身の英語力の強い自信につながったと確信した。普段の英語教室ではこのような実体験はできないので、海外研修は本当に素晴らしい体験だと思う。



八戸市体育振興公社主催

少年野球教室開催される

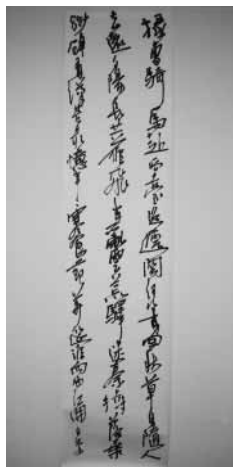


八戸市東運動公園野球場で10月19日開催された少年野球教室に本学硬式野球部員がコーチとして招かれた（対象：八戸市内小学生122名参加）。開催当日は、10月中旬とは思えない秋晴れのもと9時か

ら13時まで行われた。受付を済ませた開講式を待ちきれない子供たちが続々と球場内に足を踏み入れ、キャッチボールなどしてやる気十分な様子であった。指導内容は、野球の楽しさを伝えることをモットーにウォーミングアップから始まりキャッチボール、大学生によるデモンストレーション（シートノック、バッティング）、守備基本練習、バッティング基本練習を行った。デモンストレーション（バッティング）では、ホームランを見せるということで、3名の選手が名乗りをあげたが、小学生の前で良いところを見せようと力が入り過ぎ

たのか、左中間への1本のみという結果。それでも小学生からは、歓声が上がりなんとか大学生のプライドを保つことができたようだ。この野球教室での指導は、今回で3回目となるが、小学生へ教えることで大学生も初心に帰り、野球の楽しさ、基本の大切さを再確認する場としてとても有意義な時間である。今後も招かれる限り参加を続けていきたい。

※11月16日は、中学生対象の野球教室に参加予定



昨年・今年と行われた、第24回・25回読売書法展で二年連続入賞した。正直なところ驚いている。読売書法展というのは古典・伝統の書を伝承し書道の発展・向上を図るため、最高水準の公募展を目指し1984年に始ま

ビジネス学科 佐々木 央さん（光星学院高校卒） 読売書法展 2年連続入賞

り、質・量ともに国内トップを誇るものである。学生レベルで入賞することが困難といわれるこの作品展に、二年連続で入賞できたことは本当に光栄なことだ。

書法展に出展する作品は、「漢字・かな・蒙刻・調和体」の四部門に分かれ、各自がその中より選択する。たった一つの作品を手がけるのだが、その作業は量もさることながら、精神力・集中力を非

常に消費するので、わずかな時間の中でよりよい作品ができるよう常に心がけている。

自分自身が納得できる作品にするにはいつも苦労するところだが、その分、結果が出た時の充実感は例えられないほどだ。これからも日々精進し、書道に向っていきたい。

八大生・八短生が作る番組 「ハチバン！」放送開始

10月より、八戸テレビ放送で八大生・八短生が作る番組「ハチバン！」の放送が開始した。「ハチバン！」は、学生サークル「Be-labo」が中心となり自主制作している番組で、学生視点から学院の教



育施設や学生・生徒・子どもたちの活動を紹介していく。

第1回目の放送では「みんなだいすき、ほしのこのなかま」をサブタイトルに、八戸短期大学附属幼稚園・聖アンナ幼稚園・第二しののめ幼稚園の紹介、八戸短期大学の学生と光星学院高校の生徒の幼稚園での実習風景を収録。

「Be-labo」は、番組制作にあたり、同様に自主制作をしている地元グループの取材現場を見学し、取材方法・編集機器などを検討。学生自身が番組構成を考え、各幼稚園の行事に出向き様子を取材したほか、園児・



先生へのインタビューも行った。

また、番組最後にインフォメーションコーナーを設け、学院内の各学校の行事を紹介している(初回は学園祭(光星祭・光華祭・秋桜祭)のPR等を放送)。

「Be-labo」の奮闘成果は、放送で。

八大生・八短生が作る番組 「ハチバン！」

放送時間

第2第4金曜日

11:00・19:00・22:00

第2第4土曜日

8:30・15:30・19:30



キャリアサポート研究会は、県内8つの大学および青森県教育庁生涯学習課の方々と一緒に、高大連携支援事業「カタリバ」を行っている。

「カタリバ」とは高校生に対し、親や先生などの縦の関係ではなく、また友達との横の関係でもない、少し大人な大学生からの斜めの視点で、進路や悩みについて一緒に考えていく活動である。

大学生は三八地区、弘前地区、青森地

キャリアサポート研究会「カタリバ」

区の3つに分かれており、各地区で研修会などを通し、コミュニケーション技術や企画、運営能力を学んでいる。

企画を進めるにあたって、準備や各大学の学生を1つにまとめるなど大変なこともあるが、それ以上にやりがい、達成感が大きい。企画終了後にみせる高校生の表情は、いきいきとしている。その表情を見ることが何よりの喜びである。普段は違う大学に通う大学生が一堂所に集結し、1つのことをやり遂げるということ



は、たくさんのメリットがあり、スキルアップにもつながる。

これからたくさんの企画をこなすと共に、こうした活動に積極的に取り組む大学生を増やしていきたい。

「八戸大学健康マイスター」に32名が認定される

八戸大学健康マイスターの認定式(称号授与式)が大学祭初日の11月1日に開催された父母の会の中で、ご父母や全教員の出席のもとに行われた。

健康マイスターは、本学人間健康学部教育方針に基づき、健康に関して幅広い分野、具体的には「食・栄養」、「運動」、「心理」、「医療・福祉」などの知識・技能を習得し、かつ人物が優れた者を評価

認定することによって、学内及び地域の健康活動に積極的に関与していくことを目的としたもので、各分野の関係科目の成績において「優」の割合が6割以上、更に研究演習担当教員の推薦がある者に称号を与える制度で、今年度から新たに設けられた。

認定式では、ご父母に対するこの制度に関する説明ののち、同学部の畑山俊輝

学部長代行が受賞者全員を呼名。鈴木宏一学長が出席者全員に認定証書と認定証(首下式ネームカード)を授与し、その後1人ひとりと写真撮影をした。



秋 桜 祭

11月1日(土)・2日(日)に第28回八戸大学秋桜祭が開催された。今年のテーマは『秋だ、祭だ 八大だ!』。八戸大学から元気を発信しようという思いから「祭」をキーワードに大学祭実行委員会が中心となり企画。今回の秋桜祭は、今年の3月末に完成した総合実習館を中心にレイアウトされ、1階のエントランスホールは紅白横断幕や、祭の文字の入った提灯が並び、体育館の装飾にははっぴが使用され

るなど、「祭」を連想させる装飾が目を引きつけていた。

模擬店広場では、焼きそばや焼き鳥などこれぞ模擬店!!と言う物から、ハーブを使用した、たこ焼きやノンアルコールカクテルなど工夫を凝らした物まで多くの店が並び賑わっていた。総合実習館では、研究展示、体験コーナーが行われ、日ごろ学生達がゼミなどで研究している事を展示、実演し、ステージイベントでは、ダンスサークル brith、軽音楽部が熱いステージで会場を盛り上げ、種市海鳴太鼓のみなさんの時には優しく、時には激しく生の迫力ある太鼓に来場者のみなさんが足を止めて聴いて

いた。

その他にも第二回八戸前沖さば創作料理コンテストが開催されるなど、連日多くの人で賑わいをみせていた。



大分国体に八大生参加

大分国体 成年男子サッカー

八戸大学の選手を主体とした青森県国体選抜成年男子は青森県勢として20数年ぶりの国体出場への快挙を成し遂げた。

大分国体に出場にあたっては8月7日～8月10日まで山形県天童市で開催された東北総合体育大会(ミニ国体)での予選突破が条件であった。青森県選抜は8月上旬から強化合宿を行いミニ国体に臨

んだ。大分国体への出場枠は東北地区で2枠のみであり、どの県も強敵であったが大学生と高校生で構成した青森県選抜は連日炎天下で行われた試合でも積極的に試合を進め、岩手県選抜に2-0で勝ち、宮城県選抜にも1-0で勝利を収めリーグ首位で大分国体への切符を手にした。八戸大学の選手を中心とした青森県選抜として3年目の成果であった。

大分国体は9月27日の開会式を皮切りに各会場にて熱戦が行われた。成年男子サッカー競技は全国から予選を勝ち進んだ16チームが主会場となる中津市に集まった。

青森県選抜もチームの調整を図るため大会2日前に現地入りした。初日は残暑で南国を思わせる天候であったものの大会期間中は雨天続きの天候が続いた。

1回戦の相手は優勝候補でサッカー王国と称されている静岡県選抜であったため、選手は若干の緊張はあったが、青森県

選抜は試合開始早々から試合を優位に進め何度も決定的なチャンスをつ造った。また、元Jリーグ選手を含めた静岡県選抜は試合巧者で徐々に試合の主導権を握る試合展開となった。前半は青森県が優位に試合を進めていたが、一瞬の隙を突かれて静岡県選抜が先取点を奪い前半を折り返した。前半は当初の試合展開とは異なり選手も多少は迷いがあったが、後半は同点以上の結果を残すため、更に積極的に試合に臨んだ。その結果、後半半ばに体力的に落ちた静岡選抜から得点を奪い同点に追いついた。その後一進一退の攻防が続いたが、静岡選抜は豊富な試合経験を生かして、再度、決勝点を奪い1-2で青森県選抜を振り切り2回戦へ駒を進めた。

今回の大分国体を振り返ると青森県勢としても念願の国体出場であり、初戦突破を期待されたが他県はJFLを主体とした強豪チームが多かった。今後は今回の貴重な経験を生かして、県勢のレベルアップのために本学サッカー部も日々のトレーニングに励み、再度、国体に出場し上位進出を目指したいと感じた大会であった。



大分国体 成年男子陸上

陸上競技・男子走り幅跳びの青森県代表として大分国体に出場した。

結果は、7m14で18位。正直、県代表としての務めは十分に果たせず悔しさが残る試合ではあったが、八戸大学の名前を全国の舞台に持っていくことができた

のは素直に嬉しかった。

大学4年目に、これまで積み重ねてきた努力が、大きな成果を生むことに結びついたと思っている。今後も競技者として陸上競技を継続していこうと考えているし、後輩たちが続いて全国大会でも活躍してくれることを強く願う。共に頑張っていきたい。



「南部道楽フェスティバル2008」に、 八大生・八短大生ボランティア参加

9月27日(土)、28日(日)の2日間の日程で「南部道楽フェスティバル2008」が、八戸市中心街と市役所前広場で盛大に開催された。

27日(土)は廿三日町から三日町に掛けての通りで「道楽パレード」が行われ、その参加チームの一つとして、短大生20名が日本舞踊「泉彩菜」社中の子供たちと一緒に「八戸小唄流し踊り」を披露した。そのあとを八大生約30名と八短生6名が今年の三社大祭に参加した吉田産業グループの「山車」を引き、会場を盛り上げた。パレードは多少風があったものの好天に恵まれ、買い物の為に街に出てい

た沿道のお客様から盛大な拍手をいただいた。この日のために練習を行っていた学生たちも満足のいく踊りが出来たようである。

28日(日)は、多少小雨が降るあいにくの天気だったが、三春屋前の路上で「ニュースポーツ体験」が開催された。八大生2名と八短生2名がスタッフとして参加し、来場した子供たちに「ビーンボーリング」などの新しいスポーツの手ほどきを行い、充実した時間を過ごしていたようである。



光

華

祭



11月1日(土)と11月2日(日)の2日間にわたり、第38回八戸短期大学「光華祭」が

盛大に開催された。昨年度は、来場者数が2000人を越え過去最高数となり、沢山のお客様を迎えることができた。今年度は、昨年の勢いを止めず「光華祭」をより盛り上げていきたい、という思いを込め「Don't stop 八短」というテーマを掲げ、学生祭実行委員会を中心に約2ヶ月間にわたり準備をしてきた。

「光華祭」の内容は、各学科の特徴を出した学科企画、ゼミナール単位で運営した模擬店、附属幼稚

園や一般企業などによる展示。あすなろ会のアンパンマンショー、ウィンドアンサンブルコンサートやチアリーディングARROWSなどのステージ発表などを沢山盛り込み、親子連れでも楽しめる企画を幾つも揃えた。特に幼児保育学科企画の「こども百貨店」では、お買い物ゲームや造形製作を取り入れたアイデアあふれる企画を揃え、子どもたちから大人気。ステージ企画でもアンパンマンショーが子どもたちから絶大な人気を誇っていた。

来場して下さったお客様が笑顔で帰っていただけるよう、学生たちは精一杯のおもてなしをし、満足のいく学生祭を終えることができた。

三沢空港 施設見学



10月9日(木)、ライフデザイン学科1年の講義「旅行業法」「旅行実務Ⅰ」で、三沢空港の施設見学が行われた。この講義では、三八五観光株式会社の小林一光氏が非常勤講師として担当している科目



であり、社団法人全国旅行業協会「国内旅行業務取扱管理者試験」の合格を目指し、標準旅行約款を中心に、各種約款について学習をしている。

三沢空港に着いた学生たちが最初に見学したのは出発ロビーと屋上の送迎デッキ。三沢空港内の滑走路や奥に隣接している米軍基地の諸説明を受けた。続いて事務室内を見学。日頃見ることの出来ない事務室に入った学生たち。受付ロビーとは異なる裏方の仕事に耳を傾けていた。外国人とのやり取りを行うために受



付ロビー担当者は、TOEIC700点以上が必須になっていることを知った学生たちは驚いていた。続いて見学をしたのが到着ロビー。最後に見学したのは貨物倉庫。飛行機によっては重さが決められているため、荷物を一括して量る機械に学生たちが全員乗り、その重さを体験した。

旅行関係の科目では「旅行業法」「旅行実務Ⅰ」の他に「旅行実務Ⅱ」「観光地理」の4科目があり、座学だけではなく、こうした施設見学等を含めて講義を進めている。

ボランティア

1



10月1日(木)の午前中にライフデザイン学科のボランティアが開催された。毎年恒例のボランティアは、ライフデザイン学科としてスタートした平成18年度から毎年行っており、鮫町にある水産科学館マリメント周辺の清掃活動、中心街

にて実施した赤い羽根募金活動を行ってきた。そして今年度は、本学の隣にある美保野中学校の清掃奉仕が午前中に行われた。

各ゼミが7グループに分かれ、玄関前の草取り、玄関内のフロア、各教室前の廊下と窓拭きを担当した。この清掃には美保野中学校の生徒5名も参加。校内清掃は、はじめに床の汚れ落とし。クレンザーを使用し、スポンジで擦り汚れを落とし、雑巾掛けをして行っていた。床の汚れ落としと並行しながら窓拭きや網戸の汚れ落としも行った。玄関前の草取り

も学生たちは鎌を片手に草を刈り、まとめてごみ処理場へ手際よく運んでいた。学生たちは、慣れない手付きで約2時間、清掃活動を一生懸命頑張っていた。



ボランティア

2

ライフデザイン学科の1・2年生約50人が10月1日(木)の午後に「まちなかモデル講習会」を行った。本学とNPO法人はちのへ地域再生シニア協議会モデルク



ラブ「アン・オリーブ」と共催し、十三日町にあるジドパ夢ホールで開催された。

ライフデザイン学科では毎年ボランティア活動を行っており、この日の午後は特別授業として、舞台表現レッスンやモデルのような綺麗な立ち居振る舞いの基礎を学んだ。

舞台表現では、東京で舞台家として活躍されている「仙台エス・オー・エス」モデル兼講師の戸石充氏から講演をしてもらい「話す時は相手の主張を良く聞き、自分の言葉(声)がどう届くか意識しながら行うことが大事」などのアドバイス

を受けた。

舞台表現に続きモデルレッスンが行われ、学生たちはアン・オリーブの松山美智恵氏の手解きを受けながら、綺麗に見えるための立ち方やウォーキングに挑戦した。慣れない立ち方や歩き方に学生たちは戸惑いながらも楽しんでいただようである。



光星学院高校専攻科

平成20年度光星学院高校専攻科三団体（PTA後援会・PTA・同窓会）の役員および理事による親睦会が、10月11日（土）午後6時30分より八戸グランドホテルにて開催されました。専攻科の教育事業の後援および発展に寄与する目的として、三団体の皆さんが交流するこの親睦会は、平成14年から始まり今年で7回目を数えました。今回は三団体の方々と学校長はじめ専攻科教職員あわせて21名の参加で



平成20年度三団体親睦会開催される

した。

椿鉄男PTA後援会会長の「各学校では少子化の影響を受け、生徒数が減少していますが、これからも専攻科のますますの発展を願って教職員皆様のご協力をお願いします」との挨拶に続き、山西幸子学校長から「このような親睦会が長く続くことはありがたいことです」とお礼の言葉が述べられました。

松川敏雄同窓会長の乾杯により始まった懇親会は、時間を忘れ各テーブルとも話題が絶えることなく終始和やかに親睦を深め、あっという間に予定の時間になりました。

梶浦春光PTA会長の締めの挨拶により、今年度の三団体親睦会はお開きとなりましたが、話の尽きない



方々はこの後、場所を変えてさらに親睦を深めたようです。

今後もこの会がますます活性化し、専攻科の支援各団体の活動に理解を深め、会員相互の親睦が図れるようにしていきたいと思います。

学生会だより

安全ラリー大会

自動車科の安全ラリー大会が9月18日（木）に行われた。この大会は31回の歴史をかぞえ、伝統の大会にもなっている。競技の内容は、スタート直前に渡されるコマ地図を見ながら制限速度で進み、三カ所のチェックポイントを通る際のタイム差で競われる。今年度は13チームが参加した。地図の見落としからコースが

ら外れて、迷うチームが数台あり、規定のタイムからかなり遅れてゴールする場面が多く見られたが、事故もなく全車が無事にゴールすることができた。昼食後の表彰式で各区間賞と順位が発表され、



今年度のラリー大会は終了した。

学生会では、この大会を伝統行事として来年度以降も続けていきたいと思っている。



介護福祉科研修旅行

今回の研修旅行では、東京都青梅市の盲老人ホーム聖明園曙荘を見学した。そこでは視覚障害があっても生き生きと自律した生活を送っていることに驚いた。聴覚や触覚を活かした生活を送れるよう



に工夫されていた。例えば手をたたくと音に反応して、音声で時刻を知らせてくれる時計、手すりに大中小のビスが打ってあり、自分の部屋が分かるように工夫されていた。また利用者との関わりの中では、相手を尊重し真心を込めて見守りながら、接していると聞きました。クラブ活動や音楽会を通じて地域との交流も図られていた。

研修で、本間昭雄理事長の講話を聞いて「5つのS」が心に残った。それは、①誠実に真心を持って接する②常に学習する③専門的知識を学ぶ④笑顔⑤品格の



5つです。これは介護福祉士として大切なことなので、日々の生活を振り返り、この5つのSを身に付けられるように目指していきたいと思った。

介護福祉科 2年生 杉澤 多佳子
(光星高校出身)

第47回同窓会総会開催される！

9月20日秋晴れの中、新築となった光星学院高等学校に当時の面影を懐かしむ同窓生の方々が大勢集った。今年度は特に、新築校舎見学会も企画され第1会場と第2会場に分けての開催となった。



第1会場での総会は、新築記念の時計台贈呈式の紹介と中庭（スチューデントプラザ）でのアトラクションもあり盛大に開催された。第2会場は中村覺理事長、歴代同窓会会長ほか多数のご来賓出席のもと、八戸プラザホテルアーバンホールにて恒例の総会・懇親会となった。

豊島典興同窓会長は、3年後の同窓会50周年記念大会への会



員の協力要請を熱く訴え、校歌の大合唱と万歳三唱で成功裏に終了した。

大里アミューズ元会長講演会



9月24日、アミューズ元会長の
大里洋吉氏が来校した。アミューズは東京に事務所のある芸能プロダクションで、サザンオールスターズ、福山雅治など、500人ものアーティストを抱える日本を代表するエンターテインメント企業です。そのピッ

グネームである大里氏が本校の体育館で、800人の生徒に対し「これからの日本―若者へのメッセージ」というテーマで一時間半の講演を行った。

大里氏はアーティストとの、興味深いエピソードを交えながら、若者の夢について語り、広い体育館を回りながら一人一人の生徒にマイクを向け「君の夢は？」と尋ねた。また、ご自身の体験から、「学ぶ」事の大切さを強調され、生徒に、生涯学ぶ姿勢を忘れてはならないという事を熱い口調で語り



かけた。90分という長い時間であったが、大里氏の人を引きつけるパフォーマンスに、生徒、教員とも、時を忘れて聞き入った。

PTA研修旅行

今年度のPTA研修旅行は、9月6日(土)に実施した。テーマは「芸術鑑賞と地域の食育に関して」でした。芸術鑑賞と



して、岩手県立美術館に於いてモディリアーニの選りすぐりの48点を見ることが出来ました。彼の作品の中でも極めて質の高いものが一堂に会することは、世界的にまれでモディリアーニ芸術の真髄にふれることの出来るまたとない機会を得て全員が感動させられた。また、食育に関しては、盛岡の東屋にて「そば」の会席を堪能。中には今までに見たこともないそば料理もあり驚いた。そばは、古くから脳卒中の予防でもあり改めて成人病を防ぐためにそばの価値を今一度見直す必要性も感



じた。花巻のマルカン百貨店の大食堂では一番人気の10段ソフトクリームに挑戦するなど大変有意義な研修旅行であった。

PTAによる一声運動



本校PTAの方々と教職員による朝の一声運動が6月2日、9月5日、10月9日の三回行われた。PTA役員の方々は、朝早くからこの活動に参加し生徒一人一人に笑顔で明るく元気に声をかけていた。声をかけられた生徒は普段とは違う光景に戸惑いながらも元気に挨拶を返していた。挨拶に対する意識を高めるためにも有意義なPTA役員と教職員による一声運動でした。PTAの方々には朝早くから一声運

動の教育活動に協力してもらい感謝しております。



NEW「光星祭」開催



10月18日(土)・19日(日)の2日間の日程で、新校舎で初めての文化祭「光星祭」が開催された。昨年は校舎の工事のため開催できず、二年ぶりの開催となりましたが、

3200名の来場者を記録し、大盛況の「光星祭」となった。

従来の各科展示、文化部展示、模擬店の他に、多種のイベントを用意して実施した。初の試みとして18日(土)の夕方に中夜祭と銘打って、カラオケ決勝大会や・ドリームドーム点灯式・2008光星アワードが行われ、最後に花火大会と趣向を凝らしたイベントが実施された。間近で見る花火は迫力があり、生徒達の大歓声に包まれ中夜祭は終了。19日(日)は八戸市出身のアーティストのタカチャを招き、体育館でライブが行なった。会場は

大きな盛り上がりを見せ、タカチャと観客が一体となる素晴らしいライブとなった。

新しい校舎・新しいイベントと来場者には十分楽しんでもらえた光星祭となったと思います。最後に光星祭に携わって頂いた全ての方に感謝いたします。ありがとうございました。



10月24日(金)から26日(日)まで八戸市を中心に県高文祭が行われた。

総合開会式は八戸市公会堂で行われ、第1部式典で、本校書道部が青森県高等学校文化部活動奨励賞、東京青森県人会高等学校活動特別賞を受賞した。第2部交換会では、和太鼓などのパーカッション演奏をベースに展開され、三八地方の歴史をたどりながら歌、踊り、語り郷土芸能、ミュージカル等の発表があった。

今大会には、本校から4部門に参加した。

【書道部】

八戸市福祉体育館で開催され、全国大会参加作品と漢字の書・仮名の書・漢字仮名交じりの書・刻字・篆刻という多彩な表現を通した作品が、県内41校209作品が展示された。審査の結果、武部麻美(ビジネス科2年)さん・奈良佳織(ビ

第29回 (平成20年度)

青森県高等学校総合文化祭三八大会

ジネス科2年)さんが入賞した。

【放送部】

東奥はちのへホールで開催され、アナウンス・朗読・ラジオ番組・テレビ番組・研究発表の5部門でコンテスト形式で発表した。

アナウンス部門に木村安王(普通科2年)さんが参加した。

【吹奏楽部門】

八戸市公会堂でマーチングバンド・パトントワリング部門と合同で開催された。開会式に先立ち市内のパレードに参加、市内私立高校の合同で戴冠行進曲「王冠」を演奏した。

【文芸部】

今年度は、文化庁の後援事業の「文芸

道場北海道・東北ブロック大会」を兼ねて、アピオスあおもりで開催された。詩、短歌、俳句、等のジャンルで県内各高校から寄せられた作品の中から審査された。散文部門で、分枝健太(保育福祉科3年)君が入賞した。



インターアクト部としての奉仕活動



インターアクト部では、奉仕活動としてさまざまな活動を行っている。部員一人ひとりが、人の役に立つことの大切さ、自分にも力になれることを実感できる機会としている。

今年度の活動は、春のクリーン大作戦から始まり、緑の羽根募金活動(5月)、

6月から月一回の「リトルエンジェル」の活動、古切手回収のための回収箱作り、湊高台地区連合町内会の「敬老会」の奉仕活動と赤い羽根共同募金などです。

毎月一回、土曜日の午前中、「リトルエンジェル」に通う小学生の学習会の補助に出かけている。子ども達は、遊びを通して社会性を学んでいます。

私たちは子ども達と触れ合いながら、楽しい時間を過ごしている。また、古切手の回収を去年から始め、去年



集めた古切手を今年5月に財団法人日本キリスト教海外医療協力会に送った。今年度も引き続き回収しており、回収箱も校内に6個設置し、全校に呼びかけている。さらに、「24時間テレビ・愛は地球を救う」の募金活動に参加した。

そして、現在、赤い羽根共同募金を行っている。光星祭での部の展示場所に募金箱を設置し、協力を呼びかけた。募金期間はまだまだですので、引き続き活動して善意の輪を広げたいと思っている。

花火大会 会場大設営

8月10日(日)

当日は、雲一つない晴天だった。



作業の前に、先生から作業の内容を聞くとても大変そうな感じがした。

だが、いざ作業を行って見ると、地域の関係者の方々の力も借りてシート張りがとてもスムーズにできた。でも安心したのもつかの間で、突風が吹きせかく張ったシートが飛ばされてしまうハプニングがあり、大変な思いもしました。それでも無事にシート張りも終わり、モップで水拭きをしました。

この作業もみんなで力を合わせて頑張った結果予定より早く終わることができました。

作業が終わった後に、シートの上に寝ころがったとき、空高き昇る太陽を見て



気持ち良かったのと、同時にやり遂げた達成感を感じました。

今回、このボランティア活動を通して地域の人達と一緒に働き貴重な体験ができて良かったです。来年は、後輩達の張ったシートの上で花火を見たいと思います。

工業技術科 建築コース 熊野 大輔

JAPAN CUP 2008

日本選手権チアリーディング大会東北予選会 優勝(2連覇)



7月13日宮城県岩沼市総合体育館で行なわれたJAPAN CUP 2008日本選手権チアリーディング大会東北予選会でチア

リーディング部 LUSTERS は大会2連覇を果たした。

チアリーディングは「相手より点数を多く取る、敵を倒す」といった闘うスポーツとは異なり、「いかに観客を魅了し、ひきつけることができるか」を競う「表現競技スポーツ(見せるスポーツ)」です。チアリーダー達はこのスポーツを通して、相手を思いやる心と強い精神力、心の豊かさを学んでいきます。まさに、心身(心と体)の育成の理に適った、これからの

新しい活動のスポーツといえます。

私達は「支え合う心(チアスピリッツ)」を大切に!」これからも頑張ります。



王座奪還に向け

平成20年度は、王座奪還にむけ全精力を注ぎ、年度初めには初の試みで、京都の宇治へ修行に全員で行き精神面を我々指導者も共に鍛えた。シーズンに入ると



強化練習期間を設け夜の12時頃まで練習をしたこともあった。しかし、春の県大会では準決勝でライバル校に敗れ、さらに鍛錬を重ね挑んだ夏の甲子園予選でも決勝で同じ高校に完敗し、これからどのようにしたら勝てるのか一時は途方に暮れた。

しかし、諦めるわけにはいきません。先輩達が残してくれた財産を受け継ぎ1・2年生が立ち上がってくれた。新チーム発足当初は練習試合をするたびにボロ負けでしたが練習に練習を重ねついに秋季青森県大会では決勝戦で青森山田



高校をやぶり3年ぶりに優勝することができた。選抜甲子園大会の予選でもある東北大会でもその勢いにのり12年ぶり2回目の優勝をすることができた。チームが一丸となり素晴らしい試合をすることができた。今年は“挑戦”と“自立と自律”をスローガンにこれからも著ることなく頑張っていきたいと思う。



青森県の覇者として臨んだ第61回秋季高校野球東北大会で、12年ぶり2度目の優勝を飾り、この来春の選抜甲子園大会出場の参考となる大会を制したことで、3年ぶり4度目の春の甲子園出場がぐっと近づいた。

東北大会で光星学院高校は、初戦をコールドで勝利し、続く2回戦では延長の末、接戦をものにした。その勢いをかって、準決勝、決勝では危なげない試合運びで快勝!12年ぶりの優勝で、宮城県名取市スポーツパーク愛島球場まで応援に

秋季高校野球東北大会優勝! 春の甲子園出場がぐっと近づきました

かけつけた野球部の父母会の方々や、高校で朗報を待っていた既に夏で引退した3年生及び教職員が喜びに湧いた。

3年前、プロ野球の読売ジャイアンツに入団した坂本勇人選手らが主力だったころに春の選抜甲子園に出場して以来、3年ぶりの4度目の甲子園出場が濃厚と



なった。

ここ数年、夏の青森県大会でも、決勝の常連だった光星学院高校、決勝に勝ち進めない年もあったり、勝ち進んでも決勝ではなかなか勝てず、甲子園から遠ざかる苦しい時代が続いたが、今回の大会では今までのその悔しさを晴らすような戦いぶりだった。

それは、チームプレー精神、チーム内の信頼関係を強固にしてきたことが、優勝の原動力となったのだろう。

その原動力となったチーム内に芽生えた厚い信頼関係のもと、選手、監督、スタッフらは今も春の甲子園出場を見据え、練習に余念がない。

野辺地西高校

のへじ夏祭りに西高生が参加してきたあ！

8月24日(日)、本校では今年度も地域社会の伝統ある歴史と文化に触れ、地域の人々との交流を図り、協調・奉仕の精神を養うことを目的として「のへじ祇園まつり」に山車を製作し、参加することになった。

今年の夏祭りのスローガンは、「ふるさとの風と歴史を感じて～聞こえてくる祇園の調べ～」であった。生徒約70名、職員30名、保護者10名の合わせて110名の参加で、準備期間を数えると約1ヶ月を経過しての出陣であった。

今年の山車の題材は、「藤原秀郷、大百足退治」で製作に当たり、大百足をどのように表現したらよいのか、また百足の顔(頭)をどのように製作したらよいのか、苦心した。山を一回りするくらい

の大百足を、いかに迫力のあるものにしたらよいのかと、一週間ほど山車作りの生徒、職員で検討を重ねた。題材となった藤原秀郷は、実在した人物で、秀郷が平将門の左目を射抜いたことから、百足退治の伝説が生まれたと考えられている。

実際の山車運行では、弓を射撃つ秀郷の姿と大百足が迫ってくる様子に沿道の注目を浴び、好評を得た。今年はまつり祭典部から特別賞の「若祇賞」をいただき、本校関係者一同喜びの表情にあふれていた。

またPTA関係では、母親委員会のお母さん方が、参加した生徒、職員への給食サービスなどの、支援をもらった。



この「のへじ祇園まつり」には、今年で9回目の参加となり、本校の恒例行事として定着している。これからも野辺地町の伝統ある「祇園祭の精神を生徒たちに実感させ、継承していきたい。



青森県では今年度人権教育・学習推進事業を実施している。野辺地町でも推進委員会を立ち上げ、事業を実施しており、その一つとして9月6日～7日の一泊2日で高校生を対象に学習会が行われた。事業趣旨は、高校生を対象に自己肯定

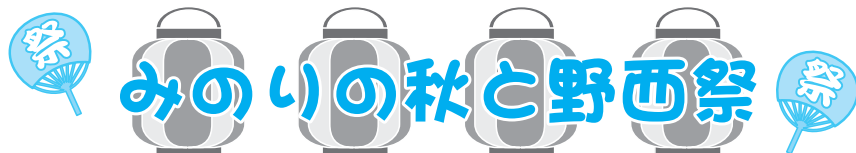
「ココロが軽くなる人権学習講座」に参加

感やコミュニケーション能力を高める学習をとおして人権感覚を磨き、自分の未来について希望、目標を掲げることが出来るようになることを目指すものであった。

野辺地町にある森林センターに於いて行われた学習会に23名の生徒が参加し、13時から22時までと翌日は8時30分から11時までハードなスケジュールの中で真剣に講師の指導を受けていた。途中にはバーベキューや盲目のミュージシャンの

ライブがあり、気分転換を図りながらワークショップをとおし、今の自分は？未来の自分は？働くこととは？について、深く考えることが出来たと感想を話していた。特に進路について決める時期にある3年生は参考になったという。

今まで経験したことのないこのようなワークショップに参加したことは、生徒達の心の深い部分に影響を与えてくれたと思う。



このほど、本校恒例の「野西高祭」が「夢～Make Best Smile～」のテーマの下、10月12日(日)に開催された。一般公開は日曜日だけであったが、晴天に恵まれ、多数の来校者を迎え盛会の内に終了することができた。内容は例年通りで、総合学科展・文化部展・クラス展・模擬店・PTA食堂などを中心に公開となった。今年の話題はクラス展の復活である。スペースの関係で昨年まで展示の場所が限られていたが、数年ぶり

に展示会場が増え、1学年のクラス展が復活し、彩りを添えた。

また前年度が夏の開催ということで、模擬店など品目に工夫が必要であったが、今年は本来の秋の開催となり、実りの秋にふさわしい開催となったことも話題にのぼった。

来校者の感想は「久しぶりに学校を訪ねました。懐かしい！」という卒業生の声や「子どもの学校を訪ねるのが楽しみです、面白く見て回りました。」などの感想を述べていた。

学校行事の精選が叫ばれる中、いつまでも来校者に歓迎されるような文化祭を目指して、「今後も知恵を絞ります」と生徒会・職員の声が聞かれた。

八戸短期大学附属幼稚園

「学校評価」の発表を終えて

現在、小中高、短大・大学とあらゆる学校で自己点検評価が進められている。

平成20年3月に「幼稚園における学校評価ガイドライン」(文部科学省)が発表

され、「学校評価」が一定の基準にそって行われることになった。

実践に先立ち、本園は東北地区私立幼稚園教員研修大会で「学校評価」の発表を行った。私立幼稚園の特性(①私立として独自の経営理念があること ②園児募集の際、園の方針や年間行事等を地域に公開して説明責任

を果たしていること)を踏まえ、本園の実情に即した計画、実行の流をPlan、Do、Check、Action に沿って発表した。

実行に当たってのポイントは、年度の重点目標を定めること、評価項目を決めることの2点が挙げられる。本園では重点目標を「行事の見直し」とし、評価項目を教員用は95項目、保護者用は20項目掲げた。発表が終わった現在、これらの項目は更に精選する必要があると思っている。Check、Action にもさまざまな問題点があることが分かってきた。

本園は、開園2年目の若い幼稚園として「学校評価」を基盤築きの一環ととらえて、積極的に実践していきたいと思っている。



聖アンナ幼稚園

ようこそ

「聖アンナ幼稚園親子ふれあいデー」へ

聖アンナ幼稚園では、行事を少しずつ見直し改革を試みている。親子ふれあいデーもその一つです。子どもが主体であること、準備に迫られ子ども本来の生活がしにくくならないこと、子どもが子どもなりに行事を感じとれること、そして子どもの成長した様子を伝える場であることなどがあげられる。

今年度の親子ふれあいデーは、平素の



教育を大切にしたいという思いから、作品展示数は、子どもに無理のない範囲に止めた。その結果、保育を特別に崩すことなく、その中で絵画や製作を経験することを工夫したことは、発達を継続していく意味で効果的だったと思っている。

当日は、作品を見ながら聞いてあげる姿はほのぼのと暖かい家族の様子が伺えた。「年齢の差がよくできていますね。」「うちの子も昨年より描けていて、こういうことなんです」という発達を理解する保護者の声も嬉しく思った。この日を楽しく過ごせるように用意された一坪ショップやお買い物ごっこ、ミニコンサートも好評。「外国みたいに路上で聴



くという感じでいいわね」という感想も聞かれ、親子で一日楽しく過ごしてほしいという願いの行事は成功といえるのではと思っている。今度いらっしゃいませんか。



びわの幼稚園



楽しかったお泊り保育



7月25日(金)・26日(土)、一泊二日で実施されたお泊り保育。年長組ぞうさんチームにとってはドキドキわくわくのイベントとなりました。

夕方4時30分には一人また一人と布団を入れた大きな荷物とともに集合。「家族と離れ、一人で大丈夫かな？」とご父母の中には不安そうな様子を見せた方も

おりました。

夕食のメニューはカレーライス・ポテトサラダ・フライドポテト・唐揚げ・麦茶、そしてデザートは自分で作った「パフェ」です。

デザート作りは先生の指導の下、透明なカップにきれいに材料を入れ、仕上げはチョコシロップをかけ出来上がり。しばらく冷蔵庫で冷やして美味しくいただきました。

夕食が終わると歯磨き、そして楽しみにしていた花火大会へ。浴衣に着替えた子どもたちは我先にと外へ飛び出し、晴れ上がった夏の夜空の下、花火を片手にはしゃぐ声が響きました。

午後9時、寝間着に着替えて就寝。心細くて泣き出す子もいるのではという心配は取り越し苦労でした。1時間後にはみんなスヤスヤと眠りにつき、布団を蹴

飛ばす子、お友だちの布団に寝ている子、90度回転する子、風邪を引かないように何度も何度も布団を掛けなおし、びわの夜は静かに更けてゆきました。

翌朝、「おはよう」の声が聞こえ、布団を片付け身支度を済ませた後、みんなでラジオ体操をしました。朝食前の散歩では園の側溝に巨大おたまじゃくしを発見し、大騒ぎする子どもたちは朝から元気一杯です。

用意したおにぎり・おひたし・しじみの味噌汁の朝食はどの子もしっかりととり、午前9時には「大丈夫でしたか？」と言いながらおうちの方々が次々にお迎えに来られました。

子どもたちの笑顔を見て、おうちの方も安心なされお泊り保育の楽しい思い出を話す帰り際の親子の姿は何よりうれしい姿でした。

第二しなのめ幼稚園

「のびのび・すくすく・ぐんぐん」と

「豊かな成長・確かな保育」を掲げている本園では、十文字学園林建造氏の造形教育三系論「つまり豊かなイメージを創る想像の系。イメージを具体化する技術の系。教師と子どもが思いを共感共有する伝達の系を柱に、文字もなく、語彙も少ない幼児の誰もが、自分の思いを伝え、描いたり創ったりの造形表現をとおして、喜びと自信が育っていくことを信じて教育活動を実践しています。

「のびのび・すくすく・ぐんぐん」には、年少児は、園生活の全てをのびのびと楽しむ。年中児はさらにすくすくと育ち力を付ける。年長児は、園の牽引役と同時に、小学校進学を喜びで待てる逞しさと力をぐんぐん伸ばしたいとの教師の思いが込められています。

日々の活動の中でも、子どもたちは行事が大好きです。私たちは、行事に取り組む過程を行事の連山縦走と捉え、子どもたちと一緒に、ある時はじっくりと、ある時は楽しみながら頂上までの間で、その子なりの成長を見つめながら進めています。

今年は、年中組は、園庭にじゃがいもを植え、小さなジョウロで水をかける姿が見られました。やがて芽が出て葉になり花が咲いた9月。芋ほり体験です。「うわーこんなに大きいよ」の歓声。すぐに描いた絵を通して子どもたちの喜びが更に増幅され伝わってきました。他のクラスの子や先生にも「見てみてぼくの絵私の絵」とにっこり顔で、自分の思いを話してくれる喜びの顔は何とも言えません。

園活動を通して感じた子どもたちのメッセージを、友だち保護者に見て頂きたい思いで2階の階段は、月変わりの常設ギャラリーになっています。子どもに歯自分の思いを他に伝えれる喜びは、



友だち家族への強い愛と信頼を育み自信と意欲を強めると考えています。

10月には、恒例の造形展「のびのび・すくすく・ぐんぐん展」が行われ、園内には、千点を越す作品が展示され、子どもたちの心の声を父母の皆さんにご覧頂き、子どもの様子等担任から聞いていきました。

表現は、運動、音楽、絵本、知的活動と多種多様です。私たちは子どもたちの思いや見えない心を、見える形で表現させ語らせたいと願いながら、ご家族の皆さんとの交流を深め、今日の喜びが明日への期待につながる幼稚園でありたいと考えています。

GAKUIN Human Relations

光星学院につながる人、OB・OGなど多方面で活躍している人たちの活躍やアドバイス・メッセージなどを紹介



今はビジネスが おもしろい!!



がまた たかし
鎌田 尚 さん
(有)マルキョウスマイルフーズ代表取締役

1968年2月11日生
光星学院高校出
1990年3月八戸大学商学部卒
高校・大学とも硬式野球部に所属し4番打者として活躍。
光星学院高校硬式野球部OB会副会長
八戸大学硬式野球部OB会幹事
白鷗小学校PTA会長などその他多数

今は、ビジネスの面白さを味わっているという鎌田尚さんは、八戸大学6回生であり、同大学商学部を卒業後、八戸漁連へ就職。その後独立して、地元八戸市に水産物の加工・製造・販売の会社、(有)マルキョウスマイルフーズを立ち上げた。大学時代には全く水産業には興味がなかったという鎌田さん、就職バブルと言われた時代、卒業と同時に将来的に安定しているだろうと思って八戸漁業協同組合連合会（八戸漁連）に就職した。そこで培った水産業のノウハウを今に活かし、ビジネス家として転身した。

独立の転機となったのは、将来的に安定しているだろうと思っていたその八戸漁連が経営難で民事再生法が適用になり、働く場所がなくなり途方にくれていた。そんな時に、励ましてくれた八戸の同業他社の人たち、日本全国のお得意様の方々と、心細かったときのあたたかい声は大きな力になった。そんな仲間達に囲まれていたことが今の会社を立ち上げた大きな要因になっていたのかもしれない。その時には、この水産業界が離れられない存在になっていた。

自分が代表取締役を務めるマルキョウスマイルフーズは、主に八戸港に水揚げされるたくさんのイカの加工品を製造販売している会社で、八戸市内の小中学校への給食物資やスーパー・生協などへ素材を納入している。また、独自の視点から市場調査を行い、安心安全、美味しく健康に食べること、子供のときから健全に食べること考えメニューに提案し、魚

介せんべいなど新製品の開発などを積極的に行っている。さらに独自の凍結庫を建設するなど事業も徐々に拡大しつつある新興の水産会社である。

鎌田さんは、今の生活は、すべてにおいてビジネスが優先されている。とにかく今は、趣味が云々というよりもビジネスの面白さを感じている。

将来的には、地球に優しい、身体に優しいをモットーに商品作りを心がけ、水産加工を志す人たちに目標とされるような企業として、製品力・衛生面・働きやすさ・将来性など明るく柔らかなイメージ・実力を身につけるため頑張っていきたいと話す。



そんな鎌田さんは、高校と大学時代に硬式野球部に所属し、常に4番バッターとしてチームの中心選手として活躍してきた。そのようなところから、会社を経営する傍ら、光星学院高校硬式野球部OB会副会長、八戸大学硬式野球部OB会幹事として、光星学院高校、八戸大学硬式野球部を支えてくれている。また、その他にも白鷗小学校PTA会長を6年努めている。（今も継続中）特にPTA会

長をやるようになって、責任はもちろんのこと、PTAのお母さん達と意見交換をすることによって、自分自身、他人の話を聞けるようになり、子どもを持つ親御さんたちの気持ちを多岐にわたって悟れるようになったという。

また家庭では、奥さんと3人の娘さん、一人の息子さんのお父さんで6人家族。最近の出来事で嬉しかったのは、息子さんが在園していた八戸短期大学附属幼稚園で、卒園証書が第1号だったのがラッキーだった。と話す。鎌田さんの子供たちは、一番上の娘さんが光星学院高校チアリーディング部で活躍し、下の娘さんと息子さんもしのめ幼稚園、八戸短期大学附属幼稚園を卒園、若しくは在園している。



鎌田さんは今年、母校である光星学院高校の校舎が新しくなったことで、光星祭にも来場。

その印象をこう語る。昔の学園祭とはイメージが違ったけど、明るい雰囲気があって、何か新しいものを感じるし、学校自体に意欲を感じた。この意欲を大事にし、高校及び大学の後輩達には、きちんと進む方向を見定めて頑張ってもらいたい。

可能性は待っているものではなく、自分自身が努力して作っていくもの。とエールを送ってくれた。

将来的には、自分が経営する(有)マルキョウスマイルフーズを後輩達と共に頑張って大きく育てていくことをイメージしている。

GAKUIN Activity

様々なことにチャレンジし、積極的に活動している
クラス、ゼミ、クラブを紹介しています



目標は全国高総文11回目出場

光星学院高校書道部



光星学院高校書道部は、1981年に創部され、過去10度にわたって全国高総文祭に参加し、これまで数多くの大会で上位入賞を果たした上、地域の書道展や美術展に多くの作品を出展してきた。その実績が認められ、2008年度の「青森県高校文化活動奨励賞」を受賞した。高総文が終わった今も次の展示会に向けて精力的に活動している。書道部の構成人数は8名、その活動は、放課後の15:30から18:00

まで美術室で行われており、部員達は日々漢字の条幅（半切と言われる大きさ（1,348mm×333mm）に書くこと）の練習に励んでいる。主な練習方法は、臨書という手本を見ながら書くことで、墨の濃さ、筆の使い方などを顧問の宮古博文先生より指導を受けながら真剣に取り組んでいる。

また、展示会に出展する作品などは、全紙（1,348×666）で出展することもある。

り、この全紙を書き上げるのは、約30分から40分の時間を要し、肉体的にも精神的にも疲労が蓄積される作業であり、文化部とはいえ、まさに体力も必要である。

このような書道部としての活動を通して部員達は、筆の使い方が前よりも上手くなった。字を見て真似る力がついた。と自分がスキルアップしていることを語っている。

今後の目標として、全国高総文への11回目の出場と、全国高校書道展で部員全員が入賞することを掲げ、日々精進しているところだ。



「八戸大学」OB&OG訪問 part11

Q. 学生時代の思い出を教えてください。

A. 生涯の友達ができ、先生方や事務の方と親密に接することができたことがいい思い出です。社会に出たあと、その有難味がよく分かりました。

Q. 商売柄気をつけていること、大切にしていることを教えてください。

A. お店をやっているので、お酒に関しては勉強しています。酒蔵訪問をしたり、酒屋さんを通じて美味しいお酒を勉強しています。自分が美味しいと思ったお酒を一方向的に「美味しい」と

いうだけではなく、「これはこういう味です」とお客様や従業員に伝えること一難しいけれども頑張っています。

Q. 在学生にメッセージをどうぞ。

A. 社会に出てからも学ぶことが多いけれども、今学んでいることが社会に出るためのステップになると思います。勉強も遊びも真剣に4年間突っ走ってください。

それから、仙台に来たら是非店に寄って「八大です」といってくれれば嬉しいです。



仙台駅地下
飯・魚・酒・肴 松島
オーナー
高橋大輔さん

プロフィール

仙台育英学園高校-八戸大学卒。
卒業後は幸楽苑勤務を経て家業の玉屋商事(株)入社、現在は取締役。
仙台市内でコンビニ6店の他飲食店などを運営する。
学生時代は柔道部に所属した。

THE学園祭

10月、11月に光星学院グループの大学、短大、高等学校で学園祭が催された。

美保野キャンパスでは八戸大学の「秋桜祭」、八戸短期大学の「光華祭」、湊高台キャンパスでは、光星学院高校の「光星祭」、野辺地キャンパスでは、野辺地西高校の「野西祭」がそれぞれ開催され、大いに盛り上がりを見せた。

秋桜祭



光華祭



光星祭



野西祭



第11号表紙

光星学院高校 スチューデントプラザ(中庭)

平成20年3月に完成した光星学院高校新校舎のスチューデントプラザ(中庭)。多目的スペースとして、生徒達と先生たちの憩いの場となっている。この日は、光星祭のイベントが開催され、大いに盛り上がりを見せた。



学院キャンパスだより第11号

発行 学校法人光星学院

編集 学院広報編集委員会

〒031-8566 青森県八戸市美保野13-98

TEL 0178-30-1411

URL <http://kosei.hachinohe-u.ac.jp/>